

山岸萌夏

名古屋大学医学部医学科 5 年

この度、私は7月8日から7月14日の5日間、名古屋大学で行われた Summer camp に参加させていただきました。Johns Hopkins University、Duke University、The University of North Carolina at Chapel Hill から2名ずつ、Peking University から5名、名古屋大学から6名が参加し、Bridging Community Medicine and Innovations in Japan というテーマで講義の受講、ディスカッション、研究室見学、岐阜県にあるかがやきクリニックへの訪問、プレゼン発表などを行いました。

研究室訪問では、私は Johns Hopkins University の学生とともに、脳神経内科でカンファレンスへの参加や教授回診を見学させていただき、研究のお話も聞かせていただきました。アメリカの学生はすでに学部を卒業したうえで医学部に進学しているため、研究活動の経験も豊富で、すでに自分のテーマを持ち、積極的に議論している姿が印象的でした。自身の研究内容とも結び付けながら活発に意見交換を行う姿に、非常に刺激を受け、今後の自分の研究への取り組み方にも大きな影響を受けました。

本プログラムで最も印象に残っているのは、かがやきクリニックへの訪問です。私は重度の身体・知的障がいがある子ども、医療的ケアを必要とする子どもと、その家族のための医療型短期入所施設であるかがやきキャンプを見学させていただきました。実際に子どもたちとも関わらせていただき、普段の実習ではなかなかできない貴重な経験をさせていただきました。施設では誰とでも、どこでも、食べて、寝て、遊べる子どもを目標にしており、たとえ一時的に支援を提供できたとしても、ご家族の役割や機会を奪ってしまうことになるため、送迎や食事の準備はあえて保護者をお願いしているというお話が強く印象に残っています。また、施設内のカンファレンスでは、子ども一人ひとりに合わせて、現在の課題や希望、本人・保護者の考えなどがホワイトボードに細かく記載されており、スタッフ全員が熱意を持って取り組んでおられる様子が伝わってきました。「まだまだ試行錯誤で、みんなで案を出し合いながら改善している」とおっしゃっていたのも心に残っています。また、食べ物や飲み物を飲み込むことが難しい方のための嚥下食を提供している Come Come Swallow の見学では、嚥下食の作り方を見学させていただき、試食もさせていただきました。見た目も味も通常の食事に近く、食べる楽しさを損なわない工夫に感動しました。市橋先生が No food, No life とおっしゃっていたように、食事が患者さんの QOL にいかに深く関わっているかを実感しました。ディスカッションでは、各国の Community medicine の特徴や課題について意見を交わしました。特に日本の国民皆保険制度に対しては、他国の学生たちが大変興味を持っており、各国の制度の利点や課題を比較しながら、互いに学び合うことができました。滞在中には美濃で浴衣体験や鶺鴒など日本文化も楽しみました。留学生は日本文化に

も大変興味を持っていて、楽しみながら親交を深めることができました。

週末には、私はアメリカの学生と一緒に伊勢に観光に行きました。私達も伊勢神宮については十分に知識があったわけではなかったため、礼拝の作法や神社の意味合いなど事前に予習していき説明すると、とても興味を持ってもらえました。名古屋城なども案内し、交流を深めることができました。

最終日のプレゼンでは、私の班は1週間のプログラムをまとめる動画を作りました。編集が得意なメンバーがいたこともあり限られた準備時間の中でも、写真を選ぶ、ナレーションを録音するなどを皆で協力して進め、楽しく作品を仕上げることができました。プログラム終了後もみんな見返しては楽しかったねとメッセージを交わしています。

6月下旬の GAME-TEI に引き続き、今回のプログラムにも参加させていただき、自分のホームである名古屋に在ながら、自国の地域医療について留学生とともに学ぶことができたのは大変貴重な経験でした。また、これまでなかなか交流の機会がなかったアメリカや中国の学生と親しくなれたことは、私にとってかけがえのない宝物です。プログラムが終わった後も連絡を取りあっており、将来海外で働きたいとより強く思うようになりました。今後は、この経験を糧に、医学知識をさらに深め、英語や研究活動にもより一層力を入れていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回のプログラム参加においてご支援いただいた、国際医学教育学の皆様、貴重な見学の機会をいただきましたかがやきクリニックの市橋先生、平田さんをはじめとするスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。